

1 学校教育目標

日本国憲法や教育基本法の内容、児童の権利に関する条約などの趣旨を尊重して、健康で個性豊かな社会人を育てるために、生涯にわたる学習の基盤を培う教育を進める。

○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子どもも教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○保護者・地域と連携を深め、信頼される学校
○児童・生徒像	○よく考える子（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につけた子） ○心豊かな子（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○たくましい子（チャレンジ精神をもち自分を育て、自分のことが好きだと言える子）
○教師像	○子どもと共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○子どものよさを認め、励まし、高める教師 ○日々の授業の充実をめざして挑戦する教師 ○自己の職責を果たしながら協働のなかで互いに高め合う教師 ○学校運営やPTA、地域行事に進んで取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(現状)

- ・児童の学習態度や生活態度は、落ち着いている。集団行動における規律は定着し、主体的な実践力、ねばり強く努力する態度、友達と励ましあって自分も挑戦を続けようとする態度などに大きな成長が感じられる。人事異動によって主任らが入れ替わったが、若手教員が先頭に立って活躍する場が増え、学校の総合力は衰えてはいない。大谷田小学校としての一体感を維持していきたい。
- ・低学年の学力以前の課題（規範意識、集中力、正しい発音発声など）が顕著に増えている中、特別支援教室との連携に成果が出ている。
- ・先行して30年度から70時間で試行してきた外国語活動（英語科）の指導力向上を継続して図る。
- ・保護者や地域は、学校に協力的である。31年度はコミュニティスクール通算7年目となる。安全安心を中軸に目的の確認、継続、改善を進めたい。

(成果と課題)

重点的な取組事項－1 学力の向上

- 数値目標 4月の区学力調査の通過率85%以上、年度末の校内再調査の通過率90%以上とする。
- 実施結果 区学力調査（4月）と校内再調査の結果、目標値通過率（第一学年を除く全員）は、
国語 90.6%（4月） → 93.9%（11月）
算数 91.9%（4月） → 91.3%（11月）となっている。

○課題と解決の方向性

- ・新学習指導要領の先行実施に伴う研修を充実する。（英語・ICT活用の授業力向上）
- ・読み書き、基礎知識の定着を重視し、自ら学ぶ意欲と態度を育てる。
- ・言語表現活動、正確な読解力、既習を活用する力を伸ばす。
- ・特別活動が充実した一方、授業時数も増え教育課程が満杯の状態、学校で読書や補充学習が十分に実施できない。家庭学習の充実に指導の工夫が必要である。
- ・区の学力向上施策、本校の学力向上策を一丸となって継続する。
- ・児童を多面的に捉え、個の実態把握、児童理解をこれまで通り重要視する。
- ・特別支援教室との連携を密に行う。

重点的な取組事項－2 体力の向上

- 数値目標 全国体力調査8種目の結果について国平均を維持し、握力についても都平均以上とする。
- 実施結果 体力合計点においては、全学年、都平均値、全国平均値以上を維持した。
「握力」においても、1,3,4年の男子以外は全国平均値を上回った。
虫歯の治療率は、昨年度の64%から今年度85%に向上した。

○課題と解決の方向性

- ・人工芝、ミズノ貸与教具を活用し日頃の運動への更なる意欲向上と継続を図る。

- ・握力・ソフトボール投げ・上体そらし・持久走は、引き続き重点的に指導する。
- ・体育の準備運動等に固定遊具を使って握る様々な運動を継続する実行させる。

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携協力による教育活動の充実

- 数値目標 あいさつの習慣化（CS 重点目標） 学校評価、児童自己評価「よい」85%以上
- 実施結果 学校評価「よい」95% 児童自己評価「よい」74%
- 課題と解決の方向性

- ・保護者には今年度「音楽会」「体罰」「投力」「学校評価」と同時期に4種類のアンケートを取らせていただいた。重なってしまい申し訳なかったが、よくご協力いただいた。
- ・今後も保護者・地域との連携支援を大切にして各取組を継続充実させていく。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上	○	○	○	○	○
2	体力向上	○	○	○	○	○
3	保護者・地域との連携協力による教育活動の充実	○	○	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1 学力向上		
A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
年度末予備調査の通過率を国語・算数とも学校85%	国語・算数とも学校85%以上	
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
	別紙「平成30年度 学力向上アクションプラン評価シート」参照	
C 前年度の成果と課題		
○成果	区学力調査（4月）と校内再調査（11月）の通過率を達成した。 国語90.6%（4月）→93.9%（11月） 算数91.9%（4月）→91.3%（11月）	
○課題	<ul style="list-style-type: none"> ・数字に表れている通り、通過率に多くの向上は見られない。逆に通過率を下げた学年学級もあり、4月にできていたことが11月にできないという事態も見受けられる。非常に残念である。個別の指導を続けるとともに、学習意欲の向上や学習習慣の定着に力を注ぐ。 ・年々学校生活に順応できない児童が増え、担任だけでは対応できない。理解と協力を得ることが難しい家庭もある。引き続き、特別支援教室との連携を密にする。 ・家庭学習（15分×学年）の習慣化について啓発する。 ・区の学力向上施策、本校の学力向上策を一丸となって継続する。 ・理数科における問題解決的学習を重視し、自ら学ぶ態度や活用する力を育てる。 ・4年終了時までの完全習得学習を中心に今年度行った個別指導を継続して行う工夫。 ・英語の教科化に向けた指導力向上、読解力の育成をより意識した指導の工夫。 	
D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
		別紙「平成31年度 学力向上アクションプラン」参照

重点的な取組事項－2 体力向上	
A 今年度の成果目標	達成基準
全国体力調査全8種目の結果について昨年度結果の維持向上	都平均、国平均以上

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
基礎体力の向上	・全国体力調査全8種目の国平均以上を保持増進する。	・1日60分運動 ・朝の体力づくり週2回の継続 実施内容の見直し充実 ・投力強化、持久力強化の実践 ・スポーツ指導ボランティアとの連携 ・オリパラ教育の推進
生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上	・休業日明け「元気カード」の実施 ・保健便りの活用、学級指導の徹底 ・感染症の予防の徹底 ・虫歯治癒率の向上 ・幼保園、学童クラブへの啓発 ・安全意識向上の指導徹底
食への自己管理能力の向上 あだち食のスタンダードの定着	・残菜率 1%以内 ・高学年は自分でごはん味噌汁を作ることができる ・農園活動の実施	・給食便りの活用、学級指導の徹底 ・糖尿病予防の知識を身に付け、簡単な調理をさせる。 ・なるなる農園での体験活動を通して、食への感謝の気持ちを育てる。

重点的な取組事項－3	保護者・地域との連携協力による教育活動の充実（コミュニティスクール）
-------------------	------------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化（CS 重点目標）	・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
あいさつの習慣化（CS 重点目標）	・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上	・児童会主体のあいさつ運動の継続 ・大人同士もあいさつの励行を啓発 ・教育活動、情報の発信の強化
交通安全防災支援 ・交通安全ボランティア ・PTAボランティア	・毎日の登下校の見守り ・交通事故ゼロ ・交通安全指導の徹底 ・ボランティアとの連携 ・いじめの防止と対応 ・児童自助パックの設置	・交通安全に関する安全教育 ・ボランティアや保護者による登下校見守り ・SNSルールの策定周知徹底 ・いじめ、不登校の防止、支援 ・インフルエンザや糖尿病等の予防 ・地域防災との連携 ・災害に備える授業、避難訓練の実施
園芸支援 ・なるなる農園ボランティア	・生活科、総合的な学習の時間の中で体験学習や環境教育に位置づけ計画的に実施 ・ボランティアの確保	・なるなる農園の維持管理 ・花壇、ビオトープ等の保全と活用 ・スーパーソルガムの栽培 ・外部人材の活用
図書支援 ・図書ボランティア	・各学年の読書目標の達成 ・図書支援員の活用 ・ボランティアとの連携	・読書カードの継続 ・必読リスト、学級文庫の設置と入替 ・感想文やお礼文で書く活動に残す ・自分で調べる子を育てる環境づくり
学習支援 ・学習支援ボランティア ・スポーツ指導ボランティア	全学年で年間を通じて実施 ・外部講師の活用 ・ボランティアとの連携	・基礎学力向上の支援、学習環境の整備 ・学生ボランティアの活用（理科教育） ・児童の夢を応援する提案
放課後支援 ・放課後子ども教室	・現状の維持 ・スタッフの確保、連携	・円滑な実施、避難訓練等への連携協力 ・夏休みの実施、日々の宿題教室の実施 ・下校指導の徹底、事故防止
創立70周年に向けて	・円滑な実施をイメージした地域・顧問関係者との連携	・前年度準備委員会の発足